

第 96 回つくば中央メーデー宣言

本日私たちは、「働くものの団結で生活と権利を守り、平和と民主主義の日本をめざそう！」のスローガンを掲げ、第96回つくば中央メーデーを開催しました。

コロナウイルス感染症の蔓延による緊急事態からは日常に戻りつつありますが、現在も私たちはさまざまなリスクと直面しています。毎年、世界経済フォーラムが発表しているグローバルリスクレポートの2025年版によると、この1年のリスクランキングの上位として、ウクライナや中東ガザ地区などの国家間の武力紛争、極端な異常気象、地経学的対立（トランプ大統領就任による国家間の関係の不安定化）、各種情報媒体を通しての誤情報および偽情報の拡散（AI技術の悪用）、貧富の差の拡大などの社会的分極化などが挙げられています。また、同じレポートにて日本のリスクの上位は人材不足、地震などの自然災害、経済停滞、豪雨や夏の異常な高温などの極端な気象現象、エネルギー供給不足などが挙げられています。

私たちはこのようなさまざまなリスクと向き合いながら生活していかなければなりません。ただし、それらのリスクの中には、地球温暖化など科学技術の発展によって解決すべき課題もたくさんあります。このつくば市には科学技術の発展を目的とする研究機関が多数存在し、研究者が問題解決にむけ日々熱意をもって研究に取り組んでいます。私たちの生活をよりよくするためにも、このような熱意ある研究が将来にわたって持続できることが必要です。ところが、科学研究を取り巻く状況は年々悪化しており、科学技術の発展や研究所が立地するつくば市の発展にも悪影響を与えかねない状況にあります。よって私たちは国に研究予算の拡充や研究所の労働環境の改善などを継続的に訴えていく必要があります。

また、先ほど紹介したリスクの中には、貧富の差の拡大など政治的な対応が不可欠な課題もあります。物価高騰や労働者の実質賃金の低迷、税金や社会保険料の負担増大などがある現状において、私たちは人間らしく働き、豊かな暮らしを実現するために、全ての労働者の大幅賃上げと労働条件の改善、雇用の安定、ジェンダー平等を求めます。

さらには、国家間の武力紛争などの解決には平和を訴える活動も重要です。昨年、日本原水爆被害者団体協議会に、核兵器のない世界を目指して尽力したこと等を理由にノーベル平和賞が授与されました。これは平和活動の貢献が大きく認められたものと考えます。これからも私たちは、先人の尊い犠牲によって獲得した日本国憲法と民主主義を守り、全ての人々の自由と命と暮らしが守られる平和な世界の実現をめざします。

最後になりますが、私たちは働く者の権利を守り、労働環境の改善、市民生活の向上、安心して暮らせる街づくりのため、同じ地域で働く仲間としてここに集いました。私たち働くものの団結で、希望もてる社会を次世代につなぐことを決意して、ここに宣言します。

2025年5月1日

第96回つくば中央メーデー